

たけのこの採算性に関する調査

鹿児島県 大隅農林事務所 上之段 作 郎

1. はじめに

肝属地区においては、総竹林面積の88%が未利用林分であり、これらの竹資源の掘り起しを図るため、竹林改良事業を実施した場合の採算性と、たけのご専用林と竹材林の施業区分をどのような形態で実施すべきか、その実態を把握するため、本調査を実施した。

2. 調査地の設定、施業、調査方法

(1). 調査地の設定 (設定面積各10a)

たけのご専用林は、鹿屋市東原町、竹林50a内で、地形は平坦地、改良前の林相は、全体的に年令構成、径級が不揃いで、雑木の20%が混生していた。

竹材林は、鹿屋市祓川町、竹林30a内で、地形は北側緩傾斜地、改良前の林相は、年令構成、径級が不揃いで、広葉樹が30%混生し、大径竹への誘導が必要であった。

(2). 施業方法

たけのご専用林については、初年目の伐竹(S48.11)は、目どおり直径7cm以下14cm以上の全本数を伐採し、親竹は8cm以上11cm以下で年令2~5年生を主眼にむらのないよう選竹した。

2年目(S48.10)以降伐竹は、5年輪伐を基準に疎密度を考察して伐竹を行ない、親竹は初年目と同様の基準としたが、親竹用新生竹は発筈最盛期前の良質たけのこを、予め目印をしておき、掘取りの時点でその配置を考慮した。3~4年目も同様とした。なお雑木処理は2年目で1/2、4年目で残りの全部を伐採除去した。

竹材林については、初年目の伐竹(S48.10)は、目どおり直径7cm以下の全部を伐採し、親竹は8cm以上、2~5年生を残すことを原則としたが、竹林自体が若いため、形質を主に、むらのないよう配置した。2年目(S49.10)以降の伐竹は、6年生以上を処分することとしたが、疎密の状態、形質の良否によっては年令を問わず伐竹を行なった。また親竹用新生竹の仕立て方についてはたけのご専用林と同様とした。なお、雑木除去は、初年目に1/2、2年目に残存木の全部を伐採除去した。

以上の施業により、4年目(調査最終年)における

親竹の本数は、10a当り、たけのご専用林で252本、竹材林で504本を残した。(表-1)

径級別には、たけのご専用林で9~11mのものが全体の80%、竹材林で11~13mのものが82%を占める結果となった。(図-1)

施肥管理については、次のように行った。

時期： たけのご専用林では、6月(40%)、10月(20%)、2~3月(40%)、竹材林で2回施用は、10月(50%)、3月(50%)、の割により年間施肥量を分割施用した。(表-2)

方法： 下草刈、地表かき後、林内全面散布。

肥料： 使用肥料は、成分比N20、P10、K10の森林肥料、ケイカル、堆きゅう肥、ケイフン。

(3). 生産調査方法

たけのこは、地方青果市場へ70%、最盛期に最寄りの筈詰工場へ30%出荷しているが、調査は早掘たけのこ(12~2月)と普通たけのこ(3~4月)に分類し、直接調査を行なった。

竹材は、緑化樹の支柱、竹刀工場、竹材業者に販売しているが、概ね協定価格で取り引きされているため、一括し、直接又は、伝票により調査を実施した。

3. 結果と考察

改良施業による生産実績は、図-2のとおりであるが、総収入の面からみると、たけのご専用林では、初年度に比較し、4年目には、4.8倍の増収がみられ、改良結果が顕著に現われているとみてよい。

生産量及び収益性からは(表-3)満足できるものではないが、改良4年目において、相応した増収を得たことは、比較的良好な形態により、現地に適応した施業が行われたものと思われる。

竹材林については、初年目に比較し、2.4倍であり、一応の改良結果はみとめられるにしても、未改良林における収益性(1日労働報酬推定6,875円)に比較し、大差がなく、投入資本に対する効果が極めて低いため、総合的な判断からは、良好な結果は出ていないと思われる。要因としては、親竹の径級配置から相定し、改良過剰であり、完成された状態ではないと判断されるため、今後、親竹の径級配置のアップ及び単位面積当りの生立本数を密に誘導するなどの、施業技術の検討

が必要であろうと考えられる。

表-1 年別伐竹整理 10a

	1年目(初)	2年目	3年目	4年目
たけのこ専用林	伐竹前本数 459本	368本	349本	325本
	親竹本数 310	287	270	252
竹材林	伐竹前本数 554	533	639	661
	親竹本数 451	455	512	504

表-2 年別施肥量 10a

	施肥回数	肥料	ケイカル	その他
たけのこ専用林	1年目(初) 2回	150kg	90kg	kg
	2年目 3ヶ	150	100	
	3~4年目 各3回	各150	各100	堆きゅう肥各250
竹材林	1年目(初) 2回	75	90	
	2年目 3ヶ	86	100	堆きゅう肥 200
	3~4年目 各2ヶ	各87	各100	1年目タイプラン 160

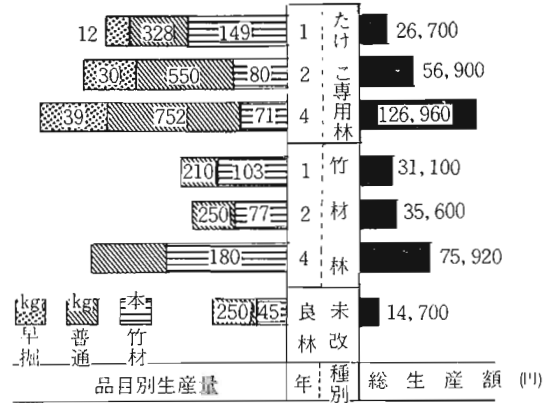
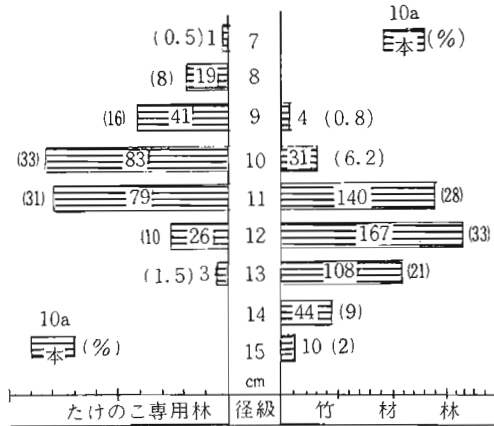


図-1 径級別親竹配置表 (4年目)

図-2 年別生産実績 (10a)

表-3 収支計算 (4年目)

10a

	項目	たけのこ専用林		竹材林		摘要
		数量	金額	数量	金額	
支	伐竹人夫	1.5人	4,800円	3人	9,600円	(1) 単純計算により試算した。 (2) 未改良竹林における1日労働報酬 6875円 1日労働報酬 純収益+家族労働賃 = 家族労働口数
	施肥	2人	6,400	2人	6,400	
	たけのこ掘取り	3.5人	11,200	2人	6,400	
	肥料代	150kg	13,500	87kg	7,830	
	ケイカル	100kg	1,800	100kg	1,800	
	堆きゅう肥	250kg	2,500	160kg	4,000	
	その他資材代		3,000			
	管理費		3,200		3,200	
出	計		46,400		39,230	
	収	早掘たけのこ	39kg	37,050		
		普通たけのこ	752kg	68,430	430kg	36,980
		竹材	71本	21,480	150本	38,940
入	計		126,960		75,920	
総収益			80,560		36,690	
1日労働報酬			13,270		7,786	